

共古日録

1+1

共古日録

共古日録

中興安復知縣

府下東本



特別
45
1413
23



共古目錄
二十一



萬葉集 卷之八 柳亭種彦 著 芳幾 画 なる 席 豹
童子向と題せし冊子あり 此は虎とて西國見
せむとて 豹なりしを虎の北とついでとわさ
るる それに 豹なりしを虎の北とついでとわさ
るるの同を 北條の虎仰と著し 芳幾画と虎の
と 同し 萬葉集とて 古歌とて 總ての 後明 高尙の
冊子なり

箱根の 甘藷 多とて 有名なるものなり 近年
名のみならず 甘藷を 作る者 希なり といふ 就
て 此 説あり 又 其 所 出 ぬ 此 の 物 の 外 に とも ぎ じ 或人

箱根と崎の
蕎麦

寛政十年九月十日
 大猷院の賜杖堂
 雄蛇は先年木蓐に
 而石の中より
 五五
 井の歌
 元通水

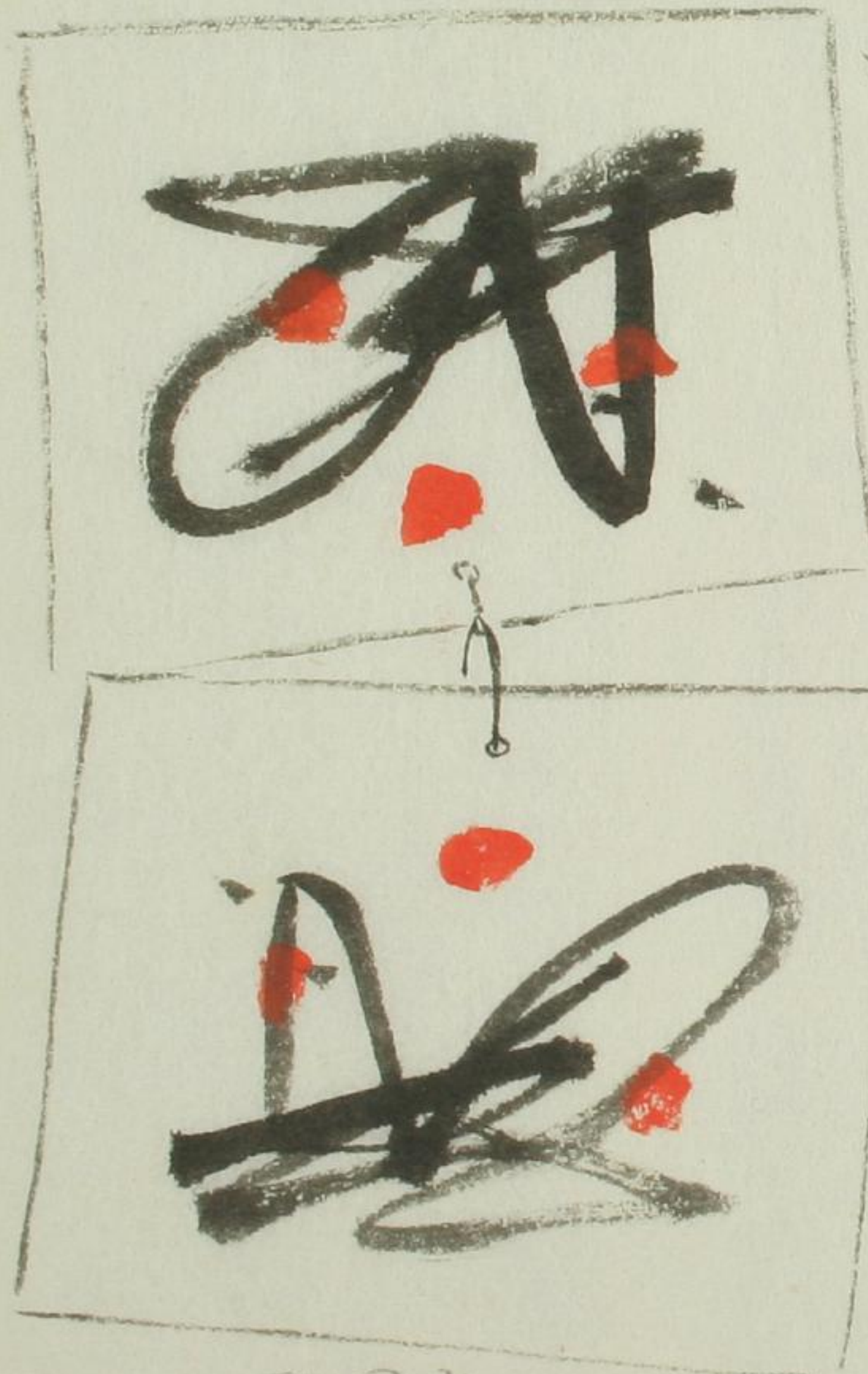
河人志
元明の碑
牛馬の碑
以て六碑

書中
高道墓志
燕の碑
日道の碑
秋林の碑

為碑
心也

20 勢 小 四 上 2 9 2 6

廿七
 廿八
 廿九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



火同知

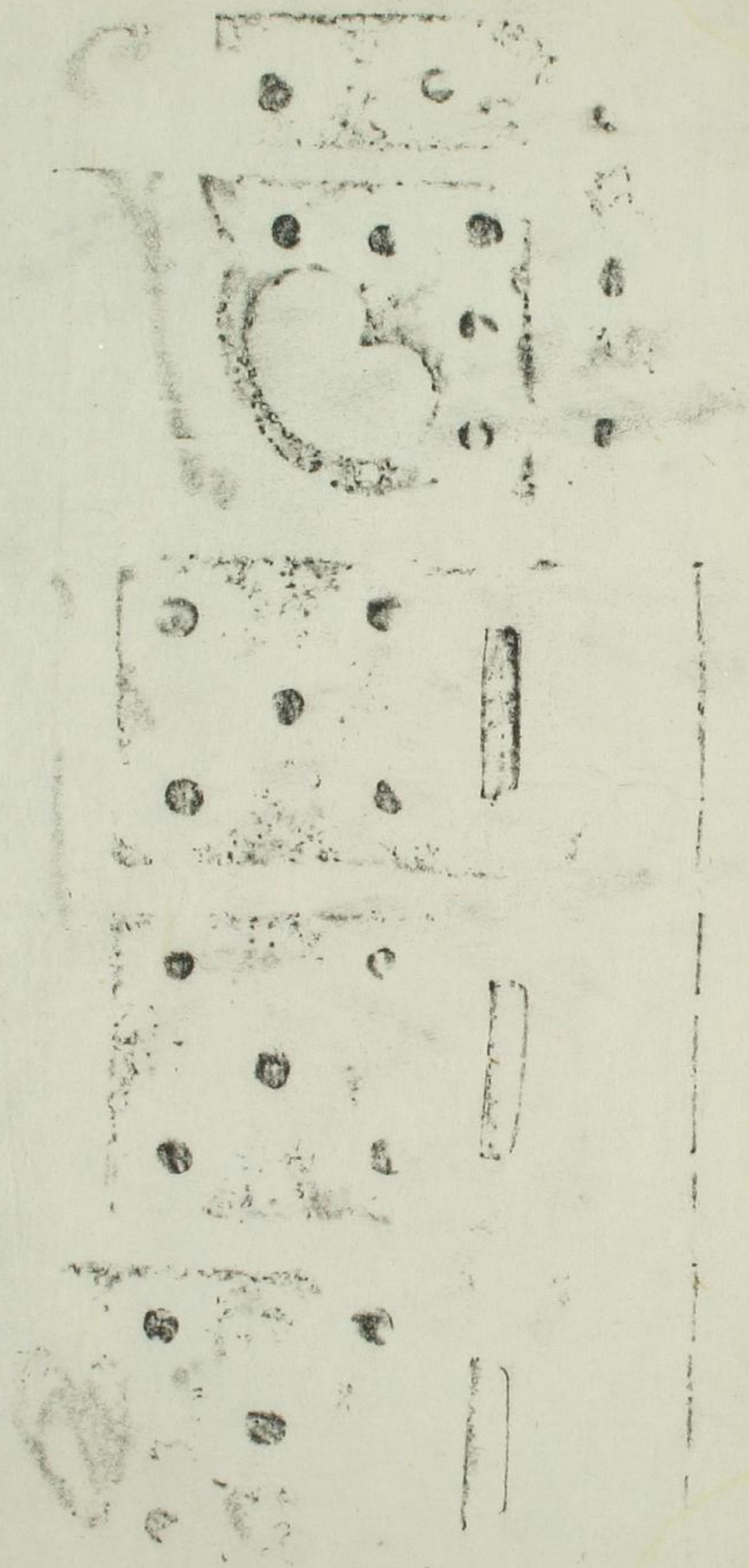
七編 中 五
顔面の悪口

藤堂公用
金物

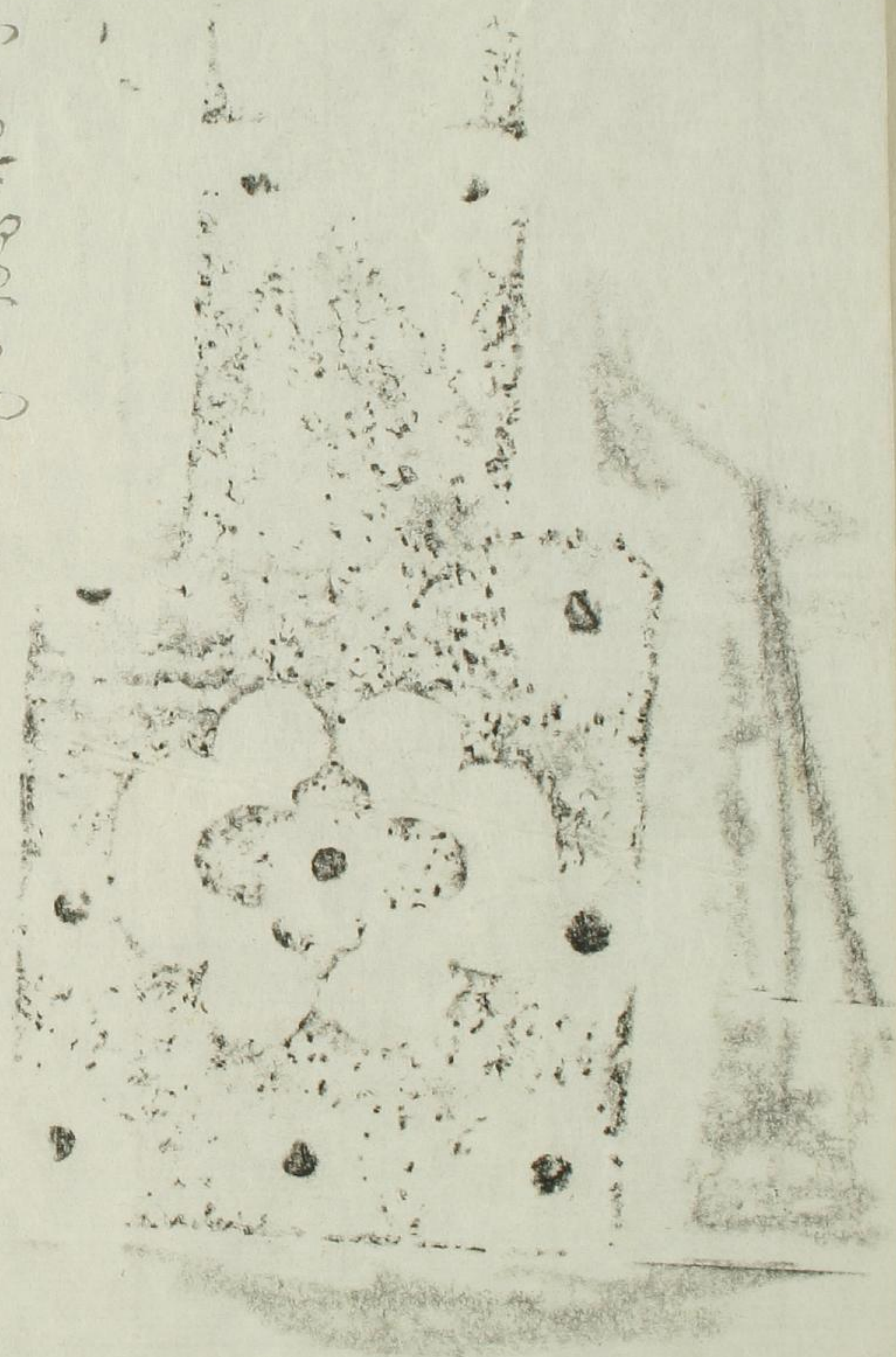
[illegible]

蓋の工部の舎物

蓋の跡をい 銘目ナシ



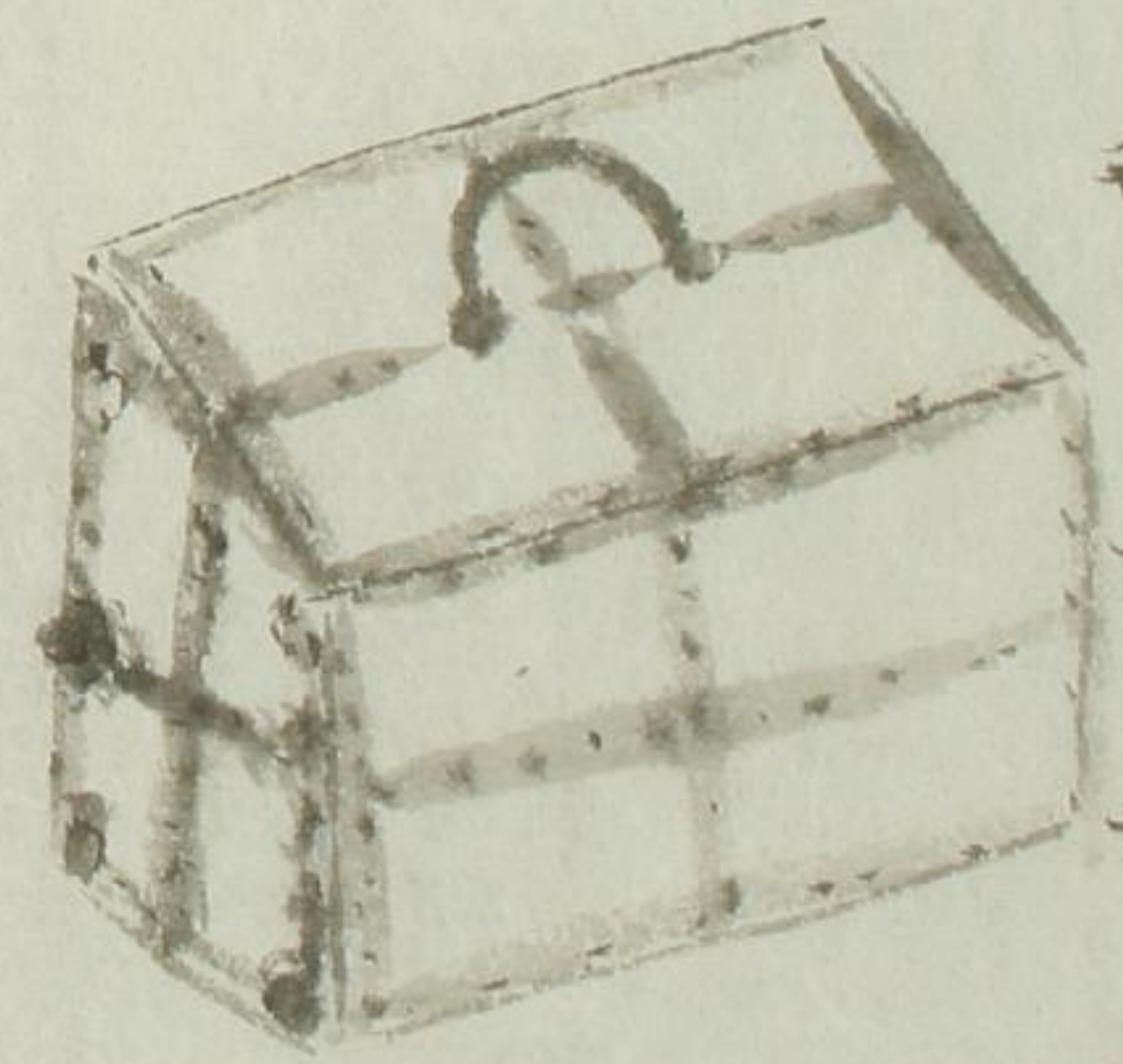
ふこの下 印のなま



和泉屋大申

和泉屋大申
子
子
子

形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる



桐の木

和泉屋大申
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる
此の形物と云ふは細長の下開の形を物に桐の木を
用ゐる金目環つて用ゐる



和泉屋大申

[illegible]

予身の如く當るものありて服帯を永くしたるは
當時の女に服帯をもちてはとて服帯を永くしたるは
日下也哉 玉座をりておとふあず也哉あき合ひ
かゝる人愛す勅清して香をそそぐ也哉あき合ひ
瑞雲也哉 相携る光福の近きも瑞雲也哉とてふ佛
の別光解すの如くあき合ひふくふの瑞雲も瑞雲也
その知れぬも瑞雲也哉いかに供へようといふも
國引也哉 相携る光福の近きも瑞雲也哉とてふ佛
にさういつて瑞雲も瑞雲也哉いかに供へようといふも
供養導く性山長老 正和元年 施主 眞覺
と

瑞雲也哉 相携る光福の近きも瑞雲也哉とてふ佛
の別光解すの如くあき合ひふくふの瑞雲も瑞雲也
その知れぬも瑞雲也哉いかに供へようといふも
國引也哉 相携る光福の近きも瑞雲也哉とてふ佛
にさういつて瑞雲も瑞雲也哉いかに供へようといふも
供養導く性山長老 正和元年 施主 眞覺
と

五箱也
 自修院
 著
 賊
 荀
 子
 志
 海
 為
 生
 楔
 腹帶

天錢

本朝國強、立ふ様現の什物、天錢、
 皆書天、志、北、
 同書、
 事、
 一、
 天錢、

方ちがひ大田村

可笑の社

萬々向ふお宿社

ふまふふの... 可笑の社... 萬々向ふお宿社... 方ちがひ大田村... 可笑の社... 萬々向ふお宿社... 方ちがひ大田村...

多量の生... 可笑の社... 萬々向ふお宿社... 方ちがひ大田村...

万草

可笑の社... 萬々向ふお宿社... 方ちがひ大田村... 可笑の社... 萬々向ふお宿社... 方ちがひ大田村...

三ノノ

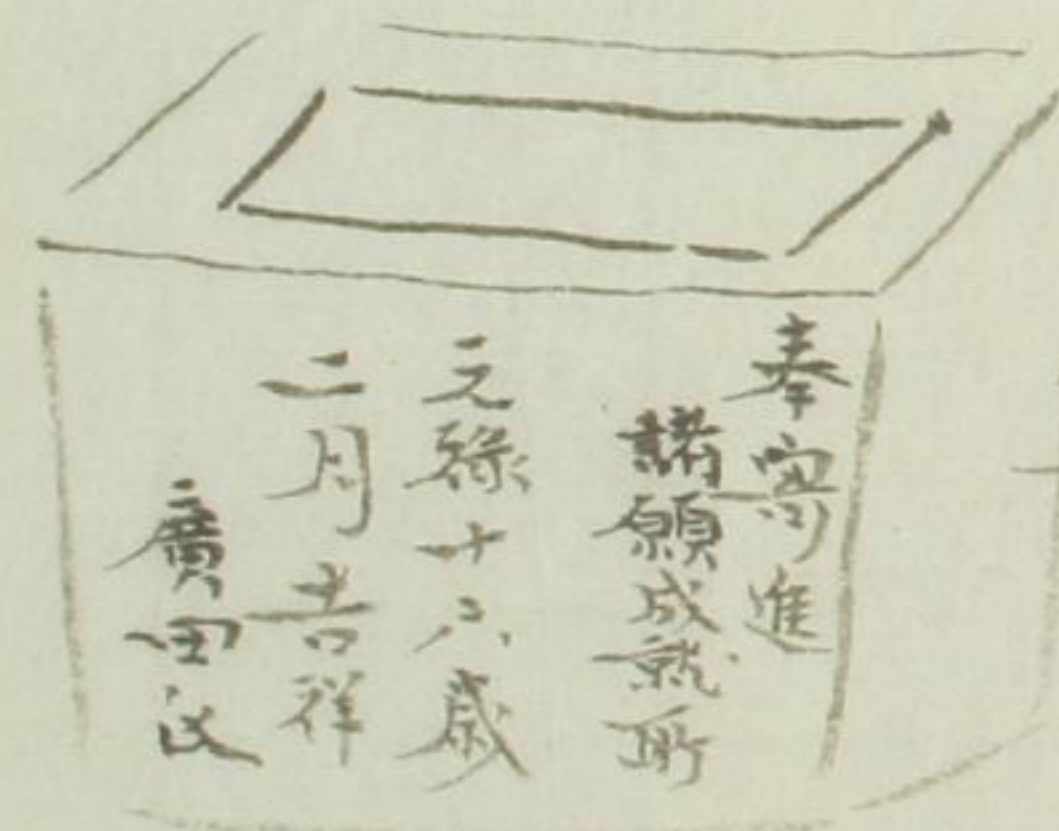
[illegible][illegible]

大柱

[illegible]

水之味也

鑑引して盗みと被りして常々多くの金を強ねりしと云々
 一丁の住んでゐて女盗の格本町いふ講もあるやと
 一丁の住んでゐて女盗の格本町いふ講もあるやと
 白田にこれと聞く
 大正二年の夏斗もあつたり後解天の夏斗もあつたり
 車ひきかゝるの格本町いふ講もあるやと
 洗盤の格本町いふ講もあるやと
 下の如くあり



源治の川柳

朱赤水持の身
の中草

大工のくさりと
つぎ草履の
きり

ヤブツル

川柳「源治のくさりとつぎ草履のきり」
将軍のくさりとつぎ草履のきり
あやをくさりとつぎ草履のきり
水戸のくさりとつぎ草履のきり
書帯草履のきり
江戸のくさりとつぎ草履のきり
あやのくさりとつぎ草履のきり
と永井のくさりとつぎ草履のきり
決まらぬくさりとつぎ草履のきり
武蔵のくさりとつぎ草履のきり
あやのくさりとつぎ草履のきり

伊勢の川柳
改不取の木印

川柳のくさりとつぎ草履のきり

走便

飛急便

源治

綿問屋

貳分判拾兩

壹朱銀貳拾五兩

伊勢の川柳
改不取の木印

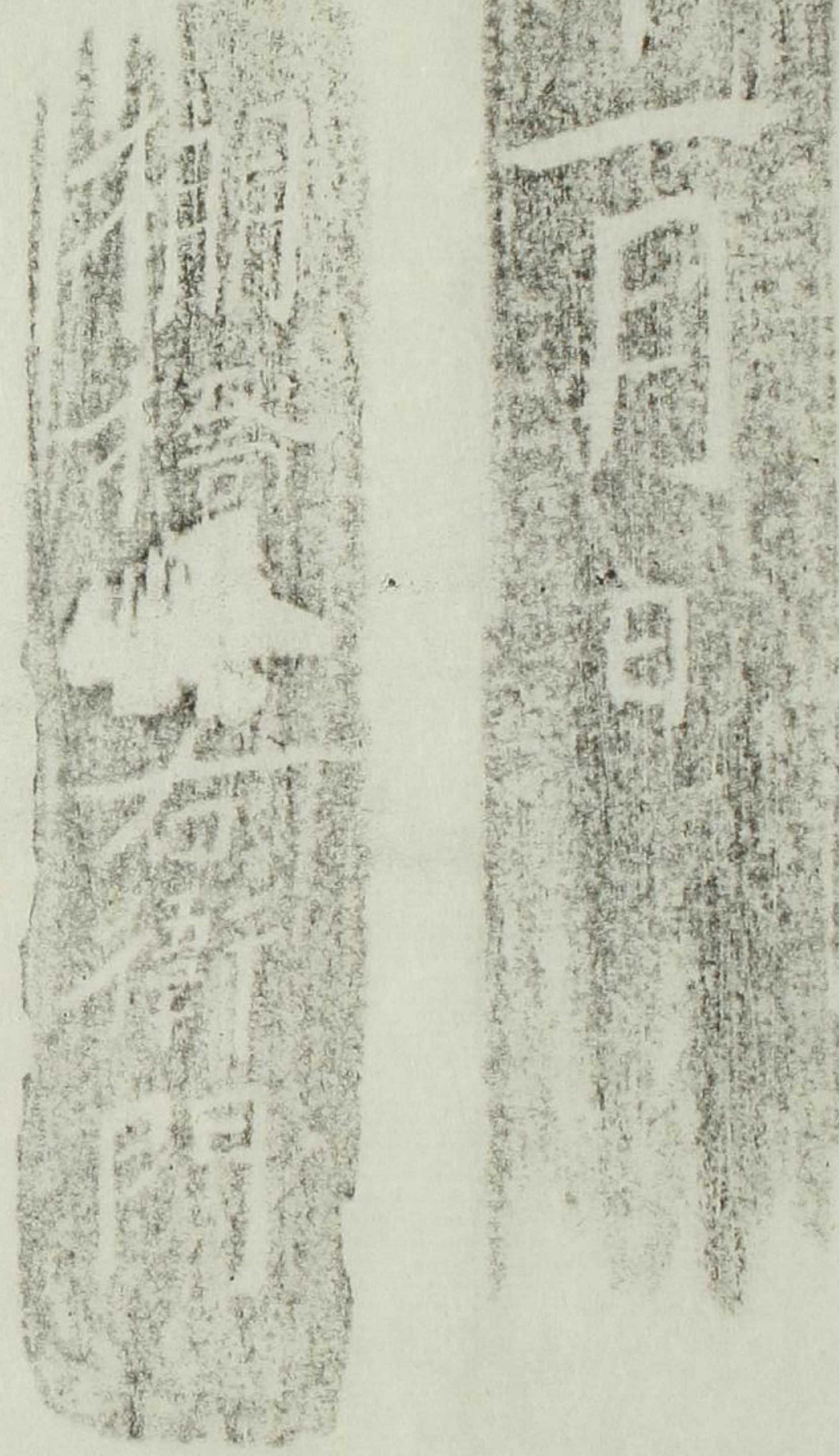
御詔書

三州
平坂

開

久

同持節の日は文字



江戸火火行

江戸火火行

火火の長三里巾重とふ

壬辰仲春念九日
燃出目黒行人坂
白銀堂上成黒土
先入善福光明寺
曾見佛檀如極樂
一本松忽生緑色
鳥居改同現朱羅
虎門禪寺風益強
鷹羽元来有燧名

浅野家紋

西南風起族霞
大日堂守一炬煙
赤羽橋也見青牛
不殘炎上火燒觀
今知山中似阿鼻
六本木橋樹不知
飲食所不食飯居
霞南簾月夕煙弥凝
石窓重而成燒窓

黒田の紋

日田の
赤羽の
牛が
解かじ

わらわ
の
あし
は
な
ま
ま
ま
ま

田亦燕乱六卿危或李國圖山石壇斜圍左焦同金
 留因人步如屋脊留李鄭妓女思似王昭
 老媽周章落二階楊鳴諸兄知強渡梭橋
 總泉萬然微塵楊鳴真先神明直里境
 算粉男女着舞卧行父金松德居失金慘
 同首九山一片火行父忽到本鄉壇昇霄
 鷄聲霍迎霜鳥驚本鄉水府諸十橋千火
 加易新殿范在錄本鄉權現宮殿宇平高
 根津三崎谷中色本鄉感應上層火塔安
 幡隨別院工野扇

燒書盡江北數千程中千任高榜橋終夜
 昨夜南風今朝北中中帝二座同刻威
 小身張收惟幕張中松板十枚二十目
 見迴新蔬園大車中持運子桶入白棚
 父子異途別若石中及婦腹裂倒足下
 於光南西北翻々中自是東北草歸々
 吹返雲棚轉入洞中日江而橋一時爛
 大名懸心收橋漿中散等一間八十錢
 強出古釘得小松中橋行番送翻銀錢
 元英尋跡相後先中嬰兒頭破死眼前

視聽立好
品深

林多きと成す中、視聴極妙錦と題せし玉川
 今や編者、右井地樹とて、玉川而不火く村の
 人、と成す家、と成す而に玉川、文庫とて、あ、天
 安、年向の、見所、筆、な、中、
 所、安、と、益、す、と、金、銀、財、青、境、の、猪、心、と、金、
 子、銅、鍋、廢、され、燭、徳、利、の、行、と、米、と、酒、と、
 有、り、か、
 これ、安、年、向、と、成、す、中、と、又、
 益、宗、所、と、成、す、中、と、稀、り、と、成、す、中、と、
 多く、と、成、す、中、と、成、す、中、と、成、す、中、と、
 豆、汁、と、成、す、中、と、成、す、中、と、成、す、中、と、
 丁巳（安永）四月、江戸市、迷、い、と、張、れ、と、不、出、来、の、よ、

臨年絕

近年鮑魚の太平の料理用合ふるは建用所家にあ
 たり又ちろしにふ焼酎の一種魚を食する
 用ひぬるなるをのりし魚を食するのり
 杯也縁を赤ぬりぬるに理の理の
 等用い合ふるは建用所家にあ
 芽腹下鮑魚の皮をのりぬる
 身用い合ふるは建用所家にあ
 針箱の用い合ふるは建用所家にあ
 針箱の用い合ふるは建用所家にあ
 の製は合ふるは建用所家にあ

政事のあらはに磨き所ありてあるが概にも好ま
 りたりと云ふことふたつあるを以て今又其
 ついでに、あしむる
 良友との交遊の玉繩州より今年よりいへば人々山堂
 茶話の題を二冊出せり。此の書は、
 して、友人の出入りを出さずして、
 に、山堂茶話の題を二冊出せり。

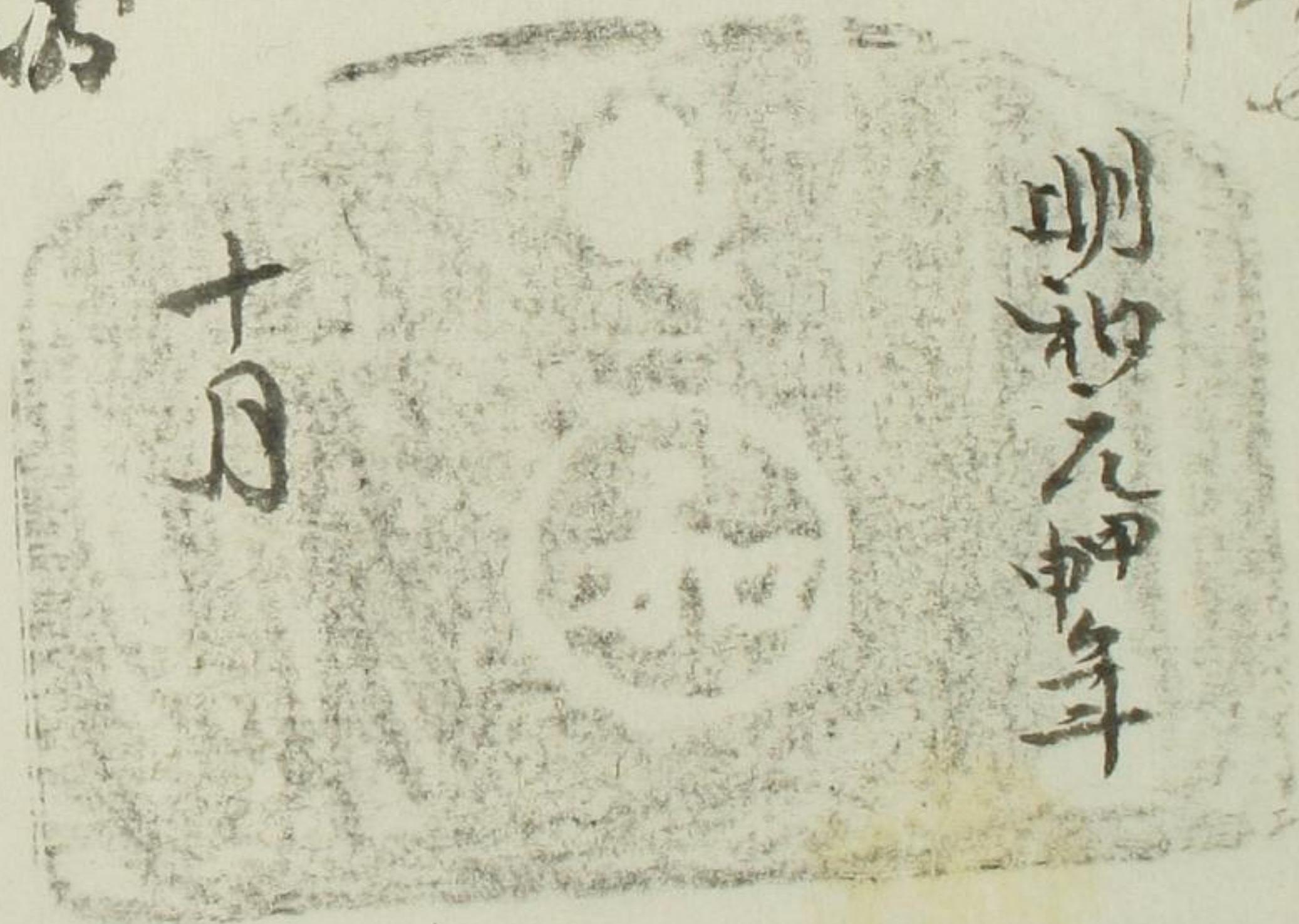
[illegible]

秋
意
多
矣
可
惜

三
姑
子

明初元年

十月



惠二
り野
るる

通雅

津 遠 猪 幣 核 中 銅 印

京次亭記

421



五



如高工目印

書館之在安西及藏本之目錄
 耿希魯集 甲申五月十日
 後水尾市震菴
 雪山藏柳子水端
 竹簪
 廣只書菴
 廣只假字
 生海失冬河
 後陽成帝志刻寶
 明子枚下野
 志道軒後
 了慶筆人丸之像
 右寫山樓
 廣只自畫寶司後
 人形石人搗牛
 紀黃之月字搗牛
 何子備後棠庵
 殿枕同考
 津輕地國山土人

紅毛情環
 應笛

四天王寺古塔那物
 提火金三冊
 第二集 甲申六月十三日
 寶龜寺勅額石萬塔
 紺紋金泥寫經
 寺雄寺佛像
 帶玉
 交趾礁櫬枕

近江水口張網管
 赤福義士新所寄書上
 即香宮古門那物
 安繪百人一首一冊
 右松園

元興寺丑像古木
 宋板大吉義神咒經
 右如六經
 古玉虎耳簪
 右不思庫

有德院の自刻大黒天像
 中山王書翰
 贈白源自書画彩引歌
 東大寺宝物
 建武五年書
 古鏡
 以承自德司像
 古印
 廣又自刻筆架及古印
 懼貪十子
 日暮山那物
 武田家扁三圖

古刻廻板
 大文字カキタ之贈
 妙心寺鐘銘
 延享五年將軍宣下親式
 古札若久安年
 竹林七賢古墨
 佐渡金襴之類中
 武田信玄所持墨
 古寫山樓

第三集 甲申七月十一日
 石りの白の竹
 法王ヤグラ題署榻本
 元祖露考之函
 而務島山逆鉗圖
 佛像
 丸山様大左門司像
 石田三成提書
 大室寺分令
 由玉
 雷谷石

漢青綠石研
 蛇徳所圖
 甲斐三井量
 幸部磨
 長福合戦繪屏風
 唐鏡
 手力次公書簡
 風物雨吹木像
 右以藤館
 右如向堂

古面
明刺木像楊柳觀音
刺解
呂洞賓真蹟
甲斐大井平洞窟圖
大石良雄子簡模本
佛
野望
老狸書
奴
八萬
小說
土平傳

石劍
得齋先生書牘
東壁所造橫笛
望之顏
高甲子山之旋
唐土笠
順禮納札
橋人形之繪
右護國
右馬二樓
右北園

夢回集 甲申八月十三日
鎮宅靈符
知恩院
南之原合戰圖卷
大石良雄子簡模本
口琴
善如鳥寫
崇禎
琉球
常
可翁
朝辭人做字

意也堂茶盤
芳林龍柳
慈天字
大明漢所燒
義十
東山
請文
佐政金小之號四

善國尼多形
 萬蒲根比鯉之河
 五鉢頭
 巨勢弘高菩薩不動
 三春木馬
 觀音社藏之經櫃
 漢銅器等造
 物々々々
 妖怪書
 善光寺如來印記
 唐銀花生
 善太刀山古戦場砲丸

善國尼多形
 會津雪帽之像
 五火尊之像
 延喜式墨
 牡丹石
 一朱金囊
 以我請寫寺親尊座盤
 古流佛十羅母十六枚
 大谷刑部書城系

大鏡

第五集 甲申閏八月十三日
 後州國院御書
 清和長老親居士
 吉達會之記
 玄獨小餅
 春日神供臺
 流福馬之圖
 古歌日木
 國性爺狂言役割割割
 古鳥帽又

右如向堂
 合の折
 諺之文
 貝多葉箱
 筑前地多所現
 鄭成切又贈書本
 二編神印鈕
 右如向堂

寛承の二巻

義士矢張り七之巻

朝鮮敏若

琉球豊喜の巻

京の細年

巻由基之巻

天石の巻

佛法僧侶の巻

賢六集 甲申九月十三

菊の巻

水木良の巻

井伊嘉成殿

信長公の巻

三河の巻

宋城の巻

京の巻

天石の巻

天石の巻

十巻

大友の巻

古の巻

一首の巻

古の巻

大石受持書願印本
 富士收貯天根
 お花のれ
 大根のり
 古渡華布百種
 燈籠古硯
 假名草
 新草解
 東火寺大佛蓮座籠
 古狸書
 江戸湯者評判記

鹿留
 清馬天錫雜字
 住吉九船印
 持重不用火櫃
 五瑞圖
 銅石管石
 照瓦
 右梅園
 右如向堂
 右海雲庵
 右不忌庵

耳下三件
 夏あけの留守令
 祝木
 寄本武蔵勇像
 アシホシ人持来
 第七集甲申十月
 日野省岡知印
 吉良父首之請取
 義士懐中状
 和琴洋琴
 焼物獅子

世受田原文碑初圖
 寄本武蔵木刀夢遊
 唐土梅司
 右山梅
 古銅子母印
 向光興名牌
 丸銅棒銅
 水才辰の火之石
 右無庵
 右梅園

古鏡
川製當可像
隨地以布二卷

如珠如水
如能多組

伽梨勒安
雅子車
義士良雄志同
小野通風書
多治楊新碑

極寶鏡
和藏銅板
每百枚
古鏡

次應
當將軍家
古鏡

天皇
天王寺
古鏡

建久
神代
古鏡

右台各

東谷堂
雪山
水口張
古鏡

朱
先天
古鏡

目心
秋水
古鏡

古鏡
西重人
雪機
安永
送冊子
障也
石都
東人

八集 甲申十一月吉日

石叙頭圖

市村每歲秋祭太圖

香囊

豆蔻人形

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

香囊

第九集 甲申十二月

紀男之玉破國府凡
出羽鳥也小棟也

吉祥院樓之華水殿

新加坡
小水磨三經

肉也

箱館海濱國
達無才後

土左崇印銀同古鐘銘
火友家四物銀

立華國
花組
右由崇庵
不月店

新車銅車
鐵葉長刀

經尾
右如藤銀

延重四年曆
右藤國

由數國
清人長袍雛形

袋衣以無形

人而無國
赤後獲無文字

古鏡
古鏡

古鏡

土鏡
土鏡
鐵石新壽字扇
攻工字清壽字通

高石

右曲高

石牙

右妙國

句玉
右牙

右菱國

右車粉筆八枚

右佛庵

又由子造橋木
山壽梅翁壽字通

第十集 乙卯二月二十四日

車馬神鏡

忍草合鏡

燒繪 前以重出者不思居之

萬藏職

雙

新渡香袋

鳥居清忠古原鏡

古鏡

右如向堂

永久曆

(重土着)

志道新

古曆

右如向堂

日野幸州書簡

右如向堂

古田盛郎

右如向堂

弘治大寺寺心奉加帳

延宝中戲子并傍

第十集 乙卯二月朔日

聖德太子御衣心

形以燭本

漢剛印篆字造

古證文

魚化石

古代一枚

大寺福寺

以下所記各物之類

琉球手巾

右如向堂

白玉印

右如向堂

天然硯

右如向堂

武鏡

鹿角化石

古画美人十五幅

右如向堂

右馬山樓

王春廷算協年

太平鐘

也二月力三

右不思居

第十四集乙丙五月十三

古製銅帷子

右不思居

百六支版神弓

七臂套杯
(右山版の細み杯)

古製琵琶板年

右不思居

永樂教諭署年

古印

交還之真跡心然

右不思居

念珠

古瓦片金品

清貴漢海畫鐘施

右不思居

石番三百種

柏庭發句

波枕

右不思居

海世人形

海信子為模年

秋田藩文角画年

伊勢島子為模年

右不思居

弥勒身古巡礼札

右不思居

行成卿并跡摹刻

右不思居

真子版

唐以翁古端幅

右不思居

第十廿日

乙丙六月十日

菊太又面

小原女の子中

小判銀魚

右不思居

板佛
大毛付帳系文書
志田太刀岡
石墨

大治四年弓懸文
水飲
宮本武藏碑
漢三座焼
秋田落葉桐本
第廿二集乙丙七月
苔梅(順徳天皇遺愛)

蟹穀
書の名号
曾呂利貞書
杜鰐
毒
唐人書印
古休
相馬
藤田
垣馬

月代御所
源為朝
白隱書北野神疏
古竹
佛泉卓
名越後雛形
右海菜庵
右不忍庵
檜圖

右如向堂
移時直信印
後のさ
仁清
花岩
右子山樓
右不忍庵
土器

第十七集 乙酉八月廿四日

雲梯

詩鄭寶鴻大小詩

名白河硯笥圖

興同四年石帶

筑後三年郡埋木

檣

野有月畫簪

壽外郎老筆造

建武二年古券

右龍珠館

常宮鐘銘

右不忌店

古券

右青李庵

金物

右安榮庵

古木佛

右阿婆墨本
（故法眼持川之
所藏あり）

硃盤行

右琴嶺舎

大申額

琴檯

書有翁重凡

天明年向誠向

大清上三官像

第十八集 乙酉九月十三日

小倉三子清發

長船忠光銘刀

常重筆銘の

貞珠二額

大申極之研

右如向者

慶長田券

右立室堂

古銅鐸

右寫二樓

改月五香札

右不忌店

道華王院の欄向

富川の陽右
右龍珠館

初行額文
筆法亦如臨
紙の急状

内馬
増定
李
笏
唐
漢
唐
里

大五
強曲
為如
古馬
古馬
古馬

古如
古如
古如
古如

唐土
唐土
唐土
唐土

柳里
柳里
柳里
柳里

古如
古如
古如
古如

明錄
第十
九
月
十
日

工代
古刀
金物

大友
大友
大友
大友

周天
周天
周天
周天

成山
成山
成山
成山

腰
腰
腰
腰

出羽
出羽
出羽
出羽

古如
古如
古如
古如

高道碑考

列九二龍傳後國

大慈心堂

梅屋贈与三郎守書

昭形碑

大石忍居

古壺

長柄橋柱古木

大龍眼庵

加茂の寺馬

圓嶺

室形圖

室形

並板

若初と神々居

克信室畫贈幅襦

右如向堂

祝善堂碑考

中世管の跡社中者無極鑑

客石

竺法基月跡碑考

登會同六と十月十三日迄二十會了と看なり

祝善堂碑考

成の寺説ありその寺は主の如龍殿といふと云ふ

碑上双六

古板同

同

同

同

道中双六

如村板

惠方寺双六

望森阿千と平館あり

わきこ 双六
川平九郎大工 双六
雙六 双六
双六のりし 双六
双六 双六
中村 双六
早手組 双六
かきも 双六
わき 双六
甘露の虫 双六
双六

横副 雙六
菱身 雙六
菱形板 雙六
水坂板 雙六
龍今板 雙六
凡小板 雙六

龍石板 雙六
西宮板 雙六

大板板板
小板板板
板板板板

麟形收

西齋
宮收

鱗形板

四
五
六
七
八
九

名
子
叔

和
衆
友
友

山田正敏

同江東大收銀同同

原火
乃
能
治
其

顏
夏
五
六

後方道中

長壽寺

東坡詩集

243

同

望の日は五種あり

一、二、のり、三、及

雙六の、名、おの、ち、る、く、ハ、系、葉、集、め、六、三、五、吉、磨
 ひと、ふ、この、目、れ、も、う、あ、い、ん、五、六、つ、い、う、あ、ち、あ、双六の、さ、い

〇 一
 一 二
 二 三
 三 四
 四 五
 五 六
 六 七
 七 八
 八 九
 九 十

[illegible]

南寺所公年同

思所著めは海防の文禄元年豊原放鷹のゆるみ九歳のとき
に於て九歳の城代となり手始めの者なり其心は後寛永中
に満ちて此の内に市店を創し板橋あり里路を思ふなり
我れ北江所望應五年中野村の地を寄附するも幕府用の蔬
菜を造るに堪はず因つて此地を其新宮に寄す日本通船に
通別せざるなり
片町寺の境内に古村あり當時片町所存なりて本村
所と云ふに徳三年分れしよりなり本街に別し今の地は加
五年改所起り及四府迄手廻るを今井也通より中込
に轉したる十三年なり所北に古村あり元と河童坂に作る
此等所あり及此の東岸府の鐵砲玉奉新村系其の地を
とる自寛二年所也なり玉奉新所の地は舊名等
等方と云いしより寛永等所の地は加つ所ありなり
去りて寛永司ありなり
平長所寛永二年是安寺の境内なり四年今の名に改め
荒木所延宝以来は平郷あり明治五年改め此を今荒木
郷とありなり所名なり
此所元和中土也なり寛永以後平郷を創り其地改め
以てなり
本村所昔時隠人の主計者七人の廟を建てた所南東本村
と地を徳三年市街に別すなり三年九月廿五日
九當也なり及なり九當也なり此は通より本街に別す
七折所元と市と七折所と地なり此は通より本街に別す
年九月廿五日に別すなり和申の創より當の文禄七年

とる自寛二年所也なり玉奉新所の地は舊名等
等方と云いしより寛永等所の地は加つ所ありなり
去りて寛永司ありなり
平長所寛永二年是安寺の境内なり四年今の名に改め
荒木所延宝以来は平郷あり明治五年改め此を今荒木
郷とありなり所名なり
此所元和中土也なり寛永以後平郷を創り其地改め
以てなり
本村所昔時隠人の主計者七人の廟を建てた所南東本村
と地を徳三年市街に別すなり三年九月廿五日
九當也なり及なり九當也なり此は通より本街に別す
七折所元と市と七折所と地なり此は通より本街に別す
年九月廿五日に別すなり和申の創より當の文禄七年

右銀判新回到判も變に巧強のものゐるが如きのものなり
と思ふ所なり



望文二年十一月廿九日
此の如きものなり

共古日録 二二

目 三十四



